

任期満了に伴う西宮市長選は20日、投開票され、無所属の新人で前市議の今村岳司氏（41）が、無所属で現職の河野昌弘氏（68）と無所属の新人で前市議の高橋倫恵氏（52）を破り、初当選した。当日有権者数は37万4775人。投票率は36・41%（前回33・65%）だった。 【米山淳、柳楽未来、高尾具成】

今村氏が当選を決めると、西宮市六湛寺町の事務所では集まった支持者から大きな歓声があがった。今村氏は「ほっとした。市の掲げてきた『文教住宅都市』を進めるため、市民全員と協力していきたい。組織やしがらみにとらわれず、市民のための政治を進める」と抱負を語った。

今村氏は、NPO活動などで知り合った県外の地方議員や学生ボランティアの支援を受け、政策チラシの全戸配布に力を入れた。

現職が進める、アサヒビール西宮工場跡地に市立中央病院や消防署を移転させる計画の白紙撤回を主張。教育分野に重点を置き、選挙戦では「市の予算は大型公共事業ではなく、西宮の将来を担う子どもたちのために使うべきだ」と訴えた。さらに教室不足解消のための小学校新設や、放課後に小学校の校庭を開放して児童の遊び場にするなどの施策を掲げ、支持を広げた。

河野氏は、待機児童の解消など1期目の実績を訴え、高橋氏も女性が働き子どもを育てられる環境作りなどを主張したが、及ばなかった。

#### ◇河野氏「不徳に尽きる」

落選した河野昌弘氏は午後11時過ぎ、西宮市上甲子園4の事務所に姿を見せた。河野氏は集まった支持者らに深く頭を下げると「私の不徳のいたすところ。多くの支援者の期待に応えられず申し訳ない」と語った。

河野氏はアサヒビール西宮工場跡地に市立中央病院などを移転し、防災公園を整備する計画を掲げた。保育園の待機児童の解消などの実績も訴えたが、財政状況や小学校の教室不足などへの懸念から支持が広がらなかった。

#### ■視点

#### ◇変革求める声受け

今村岳司氏は政党や団体の支援を受けずに、無党派層に呼びかけるスタイルで初当選した。西宮市は市職員出身の市長が3代続いてきただけに、変革を求める声の高まりが背景にあると言えそうだ。

選挙戦の最大の争点はアサヒビール西宮工場跡地の活用策。今村氏は現職が進める計画の白紙撤回を訴え、有権者の信任を得た。だが、市議会では既に現計画の予算案が通過しており、今村市政は厳しい船出を強いられる可能性もある。

今村氏は、西宮市が半世紀前に掲げた「文教住宅都市宣言」の実現を訴えた。西宮市は阪神大震災からの復興を遂げ、人口増が続いており、市立小学校の教室不足が問題化。プレハブの仮設校舎で対応するなどの現状に、今村氏は「宣言とかけ離れている」と批判。小学校の新設や、放課後の児童への校庭開放などを掲げた。

財政不足から基金の取り崩しが続くなど、財政事情は厳しい。教育環境の整備などには財政再建とセットで取り組む必要があり困難が待ち受ける。公約を実現し、市民の期待に応えられるか、手腕が問われる。 【米山淳】

#### ◆開票結果

◇西宮市＝選管最終発表

当 59576 今村岳司 41 無新 55010 河野昌弘 68 無現 20288 高橋倫恵 52 無新

=====

今村岳司 (いまむら・たけし) 41 無新 (1)

[元] 市議 [歴] 会社員▽NPO法人副理事長▽市議会運営委員長▽京大